

# 長野・愛知ブロック



長野県飯田市長  
佐藤 健  
Sato Takeshi

リニア中央新幹線（東京都・名古屋市間）



# 長野県飯田市の概要

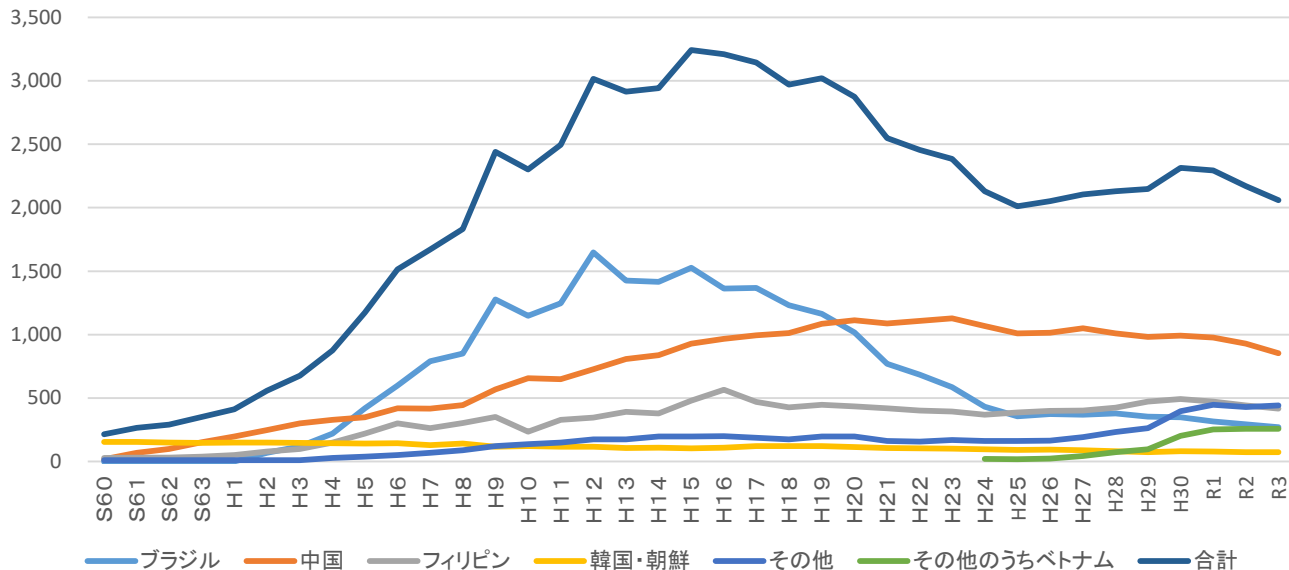


- 長野県南部、3,000メートル級の南アルプスと中央アルプスが東西に聳え、中央を天竜川が南下する伊那谷に位置する。
- 鎌倉期の文献では、共同作業で農業をする「**結い田**」と表記され、その名が今日に至る。
- 安土桃山期には、小京都と呼ばれる今日の城下町の街区の原型が形成され、今日に至る。
- 「結い」による協働性を大切に育みつつ、特色ある山の暮らし、里の暮らし、街の暮らしが営まれている。
- 古来より伝わる特色ある民俗文化が、今も生活の中に息づくまちである。

○ 面積	658.66 km <sup>2</sup>
○ 人口	97,270 人 (2022. 12.31)
○ 世帯数	40,218 世帯 (2022.12.31)
○ 標高	499.02 m (市役所)
○ 外国人住民数	2,059人 (2022.4.1)

# 飯田市における外国人住民の概況

外国人住民人口の推移



- 1970年代以降、**中国帰国者**と呼ばれる人々の帰国（満蒙開拓）が相次ぐ。
- 2000年代に入り、**ブラジル**からの労働者を中心に外国人住民が**3,000人を超える**。しかし、リーマンショックで多くの労働者が解雇、帰国
- 近年では、**ベトナム**からの技能実習生が大幅に増加。
- **中国帰国者**をはじめとする**定住者の高齢化**が始まっている。また、**多国籍化**も進んでいる。

飯田市の外国人住民数 (R4.4.1) **2,059人 (人口比2.1%)** 国籍数 **35カ国**

○国籍別：全35ヶ国

1位：中国 (856人) 2位：フィリピン (418人) 3位：ブラジル (270人) 4位：ベトナム (258人)

## 長野・愛知ブロックの提言にかかる課題認識

学校教育の現場を見ると、中学校を卒業した後、日本語学習の支援が途切れ、**外国籍生徒を中心に、やがては退学してしまう子が多く、希望に満ちたキャリア形成ができない。**

親の所得も日本人の親に比べると低く、これが子どもの教育機会の確保にも影響が出ている。**こうした課題は基礎自治体では解決できないので、国への支援施策構築を提言**していく必要がある。

# 投げかけ事項 その1

「青少年の日本語習得機会の提供」と「キャリア形成過程における地域の関係諸機関との連携」について

⇒高等学校等における日本語指導の制度化への期待と提言

1. 制度化に対して都道府県の教育委員会の主体的な関りを国が促すこと。
2. 高等学校における日本語指導にあたることができる人材の育成、確保をなお一層進めること。
3. 制度化に取り組む高等学校と、地域で活動する日本語学習支援者や団体とが連携して日本語学習支援ができる体制づくりに積極的に取り組む都道府県に対し、必要な財政措置を構築すること。

# 投げかけ事項 その2

4. 制度が対象とする生徒を明確に定義した上で、当該対象生徒の日本語レベルをスクリーニングする仕組みを構築すること。（スクリーニングテスト等活用による個々の生徒のレベルに応じた個別の指導計画の作成）
5. 中学校での学習状況や日本語レベル（DLA結果等）を高校と個人情報に留意した形で共有できる仕組みを構築すること。

「青少年の教育環境と保護者の就労環境の改善」について

外国人労働者を雇用する企業に対して、日本語教育推進法第6条により、企業が積極的に日本語学習支援に取り組むことができる財政措置を講じること。